

## 第 60 回横須賀市文化振興審議会 議事概要

日 時：平成 27 年 3 月 27 日（金）

14:00～15:25

場 所：横須賀市役所 3 0 2 会議室

出席者：秋岡委員、崎山委員、西堀委員、蛭田委員、廣瀬委員、藤井委員、  
吉田委員、山本委員、若江委員

欠席者：なし

傍聴者：なし

事務局：文化振興課 小澤課長、福原係長、種市担当

- 
- ・ 司会として小澤課長が開会を告げ、9名の全委員が出席であり、定足数を満たしている報告があった。
  - ・ 規定により、委員長を議長とし、次第に沿って進行した。

### 1 文化振興基本計画の進行管理について

事務局から資料 1 により説明を行った。

#### ○質疑応答

委 員： ・ 進行管理は各所管での評価なのか、それとも第三者の評価なのか。

事務局： ・ 進行管理対象事業について、まず各所管で評価をし、その後、庁内組織の文化振興基本計画推進専門分科会でも評価を行う。

委 員： ・ 新しい計画期間となったが、進行管理で変わったことはあるのか。

事務局： ・ 進行管理の仕組み自体には大きな変更はないが、新しい計画に加わった事業を進行管理対象に加えている。

委 員： ・ 進行管理という言葉が、意味不明ではないが、進捗状況を把握するとか経過報告が必要なものという意味だと思うので、進行管理対象というよりは進捗状況把握対象でもいいかと思う。感想であって修正を強く求めるものではない。

事務局： ・ 計画書でも進行管理という表現を使っているなので、そのまま使用している。ご意見は参考とさせていただく。

委 員： ・ 進捗状況を把握することは重要だが、計画の全体像をどうやって市民の方に伝えていくのか。

事務局： ・ 進行管理の結果については、市のホームページで公表するが、併せて今回の計画で新たに設けた指標についても状況を公表するので、市としての計画に対する取り組みの方向性は、そのあたりを含めて伝えたい。

- 委員： ・ 計画書はどこかで配られているのか。
- 事務局： ・ 文化振興課で配布をしており、市の市政情報コーナーでも閲覧が可能である。併せて市のホームページでも同様の内容を掲載している。
- 委員： ・ 計画書に書かれている内容は非常に重要なのだが、若者の目からすると字が多く分かりにくい。もう少し噛み砕いたものがあるといい。
- 事務局： ・ 計画のダイジェスト版を作成し配布している。市のホームページでの掲載についてもわかりやすくするように努めたい。
- 委員： ・ 新しく対象になったものの説明はあったが、逆になくなったものはあるのか。
- 事務局： ・ 新たに加えたものに比べれば少ないが、事業の終了や発行物の配布終了など、前計画では対象としていたいくつかのものが無くなっている。
- 委員： ・ 他の計画との整合性、特に事業のシーリングがかかる場合に注意してほしい。
- 事務局： ・ 計画の策定段階でも他の分野別計画との整合性には注視してきた。文化振興基本計画を含め、分野別計画は計画期間が各々違うので、基となる市の実施計画において注意するようにしている。
- 委員： ・ 計画書自体は様々な内容がよく網羅されているが、ビジュアル的にすることでもっとわかりやすく伝えられると思う。
- 委員： ・ 一目でわかる進行管理マップみたいなものがあるとわかりやすい。
- 委員： ・ 文化振興と言うからにはもう少し工夫があってもいいのではと思う。
- 事務局： ・ 進行管理をまとめる段階で検討したい。

## 2 横須賀製鉄所（造船所）創設 150 周年記念事業について

事務局から資料 2 により説明を行った。

### ○質疑応答

- 委員： ・ 急に大きな予算が出てきて、11 月に向けて十分な盛り上がりができるのか危惧される。
- 事務局： ・ 昨年 11 月のヴェルニー小栗祭あたりからパンフレットの配布や広報紙など周知をしている。平成 27 年度には大きなイベントなども実施するが、学校教育での取り組みなど一過性にならない取り組みを目指している。
- 委員： ・ (製鉄所 50 周年の時の様子を紹介) この時はアカデミックな講演会や展示会などではなく、町をあげてのお祭りの的なのを行った。

- 事務局： ・ 50周年の時の様子は事務局も承知しており、100周年の時は文化会館の開館という大きな事業もあった。ペリー来航150周年の開国祭のときにも大きなイベントがあったが、今回はイベントだけではなく横須賀製鉄所を知っていただき、次世代につなげていく取り組みも重視している。
- 委員： ・ 次世代へつなぐ取り組みも大事であるが、社会的には少子高齢化が進んでいるので、製鉄所のようなことに関心のある中高年の方にも焦点をあてる必要があると思う。また、文化振興基本計画では障害者の文化活動の支援ということがあるが、この事業に際してそのあたりの対応が見えてこない
- 事務局： ・ 今後の事業の中で検討していきたい。
- 委員： ・ 言葉の使い方で、製鉄所（造船所）という表現が気になる。海軍から自衛隊にかけての150年間の横須賀の貢献を正面から取り上げてもいいのではないか。製鉄所ではわかりにくいので、はっきりと造船所と表記してもいいのではないか。
- 委員： ・ 創設時のフランス語では「工廠」という言葉で伝えられた。船も作る、エンジンも作る、様々な鉄製品を造るということで製鉄所という名が最初に使われた。製鉄所と造船所は同じものということを経験として知ってもらうためには製鉄所という言葉を使うべきと考え、あえてこのような表現にした。
- 委員： ・ 横須賀製鉄所は横須賀造船所、海軍工廠などに名称が変わったが、フランスの史料では一貫して「arsenal（アルスナル）」と呼ばれている。
- 委員： ・ 横須賀製鉄所を知らしめる資料や展示物が十分出てきていないので迫力がないように思える。
- 委員： ・ 横須賀製鉄所自体が米軍基地内にあるということで簡単にその場に行かれないのが残念である。名称については、工廠という語が明白に軍事施設を意味するので遠慮もあるのだろうが。ベネチアに学会で行った時に公式プログラムにベネチア造船所（イタリア海軍の海軍工廠）の見学が入っていた。それが彼の地の重要な文化遺産だからである。そういった割り切った考え方も必要ではないか。政治や思想的な面と文化的な面を分けて考えることも必要ではないか。
- 委員： ・ 海外では軍関係の博物館は国の重要な博物館となっているが、日本ではそのような扱いが難しいようだ。また横須賀製鉄所の場所が米軍基地の中であり、関東大震災で明治期のものがドック以外にはほとんど残っていない事は残念である。学校教育でも近代はしっかりと扱われていないので、横須賀製鉄所にスポットをあてることで子どもたちに近世の歴史にも興味を思ってもらいたい。その中で横須賀製鉄所が担った近代産業の発展にも触れていってもらいたい。
- 委員： ・ 横断幕や懸垂幕はどのようなものか。海外では駅から会場までわかりやすいフラッグを飾ったりしているが、そのようなビジュアルな取り組みはないのか。

- 事務局： ・ 懸垂幕は市役所に掲出、横断幕は中央駅前を検討している。ビジュアルな取り組みは計画していないが、周知方法については参考にしたい。
- 委員： ・ ヴェルニーゆかりの走水湧水のペットボトルはいつ頃くらいで発売するのか。
- 事務局： ・ あまり大量には作らないので限定的な配布となり、販売は限定的となる。

### 3 東京湾要塞跡猿島砲台跡・千代ヶ崎砲台跡の国史跡指定について

事務局から資料3により説明を行った。

#### ○質疑応答

- 委員： ・ 全国的にこのような史跡は荒れていると聞いているがここはどのような状況なのか。
- 事務局： ・ 比較的いい状態で残っている。当時の大砲などは残っていないがレンガでできている構築物は良く残っている。しかし、バスが入れない場所なので、多くの方が一度に訪れることは難しい状況である。最初は限定的な公開になる予定である。
- 委員： ・ これも中高年には興味があるものだと思う。
- 委員： ・ こういう史跡は海外にもあるのか。
- 委員： ・ 煉瓦造りの砲台は海外にもある。猿島砲台はかなり早い時期にできたもので、時期によって違う煉瓦の積み方が残っているので貴重である。千代ヶ崎は煉瓦積みの完成形で非常にきれいである。
- 委員： ・ 軍事という切り口だけでなく、衣食住といった当時の生活にもスポットをあてて欲しい。文化という側面で行政には取り組んでもらいたい。
- 委員： ・ フランスのムージャンの砲台はよく保存されていて、インターネットでも丁寧に掲載されている。今回の史跡や横須賀製鉄所も積極的に発信してほしい。フランスとの人的交流も面白いかもしれない。
- 委員： ・ 中国天津の大沽(たいこ)というところにも砲台やドックが残っており、特別によく保存されているというわけではないが、資料館もあり充実していた。参考にすることもありうるのではないか。

### 4 その他

その他、特に質問・ご意見等はなく、審議会を終了した。